

# 画期的な研究と地道な科学教育

島根大学生物資源科学部

青柳里果 (Aoyagi, Satoka)

<http://bioinfoenv.shimane-u.ac.jp/aoyagi>

# あえて教育の話を

科学・技術と生活 = > 切り離せない

文系にも理系にも科学教育

科学哲学史

熱力学

量子力学 など

研究者による教育 → 今・これからの科学を知る



これからの研究発展への社会的基盤の強化

# 地方大学での教育で感じたこと

東京の私立大学(早稲田、成蹊大学)から島根大学に赴任して6年目

学生の機会の少なさ <= 地の不利

学会・研究会への学生の参加困難: **旅費の壁**

留学生教育のより一層の充実および活用必要

**英語による授業を増やす** => 日本の学生も受講

実習・研究に基づく学習のより一層の充実必要

研究費は削減しても、**教育費は削減しない**



教育費の充実



次世代の科学・技術・社会を支える

# (学生等が)最先端の研究に触れる重要性

科学・技術の広がりを知る  
未来の社会の可能性を知る  
直面する課題の重要性・困難さを知る

## 大学教育の利点

比較的少人数教育（研究室、ゼミ）  
現役の研究者との直接のやりとり  
<=人間的接触

困難な課題に取り組む機会（卒業研究）  
<=自分の限界に挑戦？！

# 最先端研究へのたゆまぬ努力

- 質の高い教育への還元
- 学生との真剣な討論（双方向型）

## 研究費の獲得：

申請する側の努力は当然だが、  
機会均等と、透明性のある評価方法

## 研究の発展：

限られた条件の中でも、常に創造の努力

# 研究費配分の今後

先入観の排除は難しいが、機会均等をめざして

→ 研究費獲得の機会を増やす

獲得の努力が認められるシステム

本当に新しい研究はだれが評価できるのか？

現状システムの改良

→ 研究費の使い方の柔軟性

研究費の枠を超えた使用

高額機器購入のための積立

次年度への繰り越し